

## 2014年度（第16回）学生懸賞論文「女性学インスティテュート賞」

### 総 評

女性学インスティテュートディレクター

横 田 恵 子

本年度の「女性学インスティテュート賞」への応募論文は、中川侑香（本学英文学科）氏による「Sexual Revolution in the 1960s and the Crisis of Masculine Identity in Raymond Carver's "Vitamins"（レイモンド・カーヴァーの「ビタミン」における1960年代の性革命と男性のアイデンティティの危機）」1本でした。

この小品は、カーヴァーの作品の中では取り上げられることが少ない作品であり、特にセクシャリティを題材としています。女性の登場人物を通して、1960年代当時の性革命による女性の意識変容と、主人公である男性のアイデンティティの喪失、男性性の不全を描いた作品です。

審査委員会では、中川氏の論述が、ジェンダー・スタディーズの観点から丁寧な作品分析を試みている事について一定の評価がなされました。一方で、なおいっそうの理路の精緻さが学術論文としては必要、との考えも示され、結果としては「学生論文としては一定の水準を満たしており、論旨の掲載に相応しい」との総意を得ましたので、本応募論文を「優秀論文」とすることに決定いたしました。